2026 年 10 月 27 日

第 73 回　関東城岳同窓会　総会・懇親会に参加して

城岳同窓会会長　與那覇博明

関東城岳同窓会の総会・懇親会が 10 月 25 日(日)東京千代田区一ツ橋の喜山倶楽部で開かれました。懇親会には 8 期生から 70 期生まで文字通り老若男女の同窓生、60 人余が参加、最も若い 70 期の宮里崇生さんのかぎやで風で幕を開けました。この中で大浜多慧子会長(17 期)は「80 代 90 代の先輩の母校への愛情のおかげで今がある。若い世代の同窓生が参加するようになっておりシニアの知恵と経験、若い人たちの感性とアイデアを生かして活動していきたい」と挨拶しました。







懇親会には関東養秀同総会(首里高校)、関東南秀同窓会(宮古高校)や沖縄県人会の役員も来賓として出席、懇親会に先立って行われた眞栄田修氏(8 期)と南秀同窓会の砂川隆久顧問の講演で「戦後那覇高校は首里高校の分校としてスタート、宮古高校の前身・宮古中学は二中の分校として設立された」という学校草創期の経緯を紹介、出席者は興味深く耳を傾けていました。







関東城岳同窓会は参加者の高齢化が進み、若い世代の参加が課題になっていますが昨年から 30 期以降の参加が増え明るい兆しが見えています。北海道、関西も高齢化と参加者の減少という課題を抱えており、懇親会のあいさつで城岳同窓会の與那覇博明会長は「同窓会の目的は会員相互の親睦交流、母校と後輩である那覇高生の支援である。多くの同窓生が参加出来るよう連携して行こう」と呼びかけました。





東京大学を副学長で退官、東京の広尾学園の校長を務める南風原朝和氏（25 期）の音頭で乾杯、各テーブルで談笑の輪が広がりました。会場では戦前戦後の古い那覇高校の校舎や部活、授業風景などの写真がスクリーンに映し出された他、舞台では琉舞や初参加者などのスピーチが行われ最後はカチャーシーで締めくくりました。